

2018/10/19

神代植物公園

植物多様性センターの「キク科アキノキリンソウ属」

アキノキリンソウは里山などに普通で秋草の代表でしたが、戦後の野原はいつしか北米生まれのセイタカアワダチソウが主役になりました。ところがそのセイタカアワダチソウも最近では元気がありません。根から周囲の植物の成長を抑制する化学物質を出すアレロパシー効果でススキ等を駆逐してきましたが、濃度が上がりすぎて自分達も発芽できなくなってしまう、今ではむしろススキに押され気味です。嫌われ者の代名詞のようなセイタカアワダチソウですが、蜜源植物としても優秀、よく見ると花も可愛いです。



アキノキリンソウの頭花
舌状花は雌性で幅は広め



セイタカアワダチソウの頭花
舌状花は雌性で細く小さい



横から観察すると、花は枝の上側に偏り、隙間なくつく



豊富な蜜を求めて集まる
ハラナガツチバチの仲間